

第三回ゴルフ大会のお知らせ

日時 平成 26 年 10 月 10 日 (金)
 場所 東武藤が丘カントリー倶楽部
 栃木県栃木市藤岡町太田3857-1
 アクセス 東武日光線 板倉東洋駅からクラブバス・タクシー
 東北自動車道 佐野藤岡ICから約 5 分
 参加費 18,000 円 (予定)

申し込み／お問い合わせ
 海原会ゴルフ会事務局

会員募集 !! 海原医業会 (仮) を立ち上げます

医療関係に携わる同窓生の親睦・交流を図る海原医業会 (仮) の設立準備を進めています。医療関係の仕事に従事している (していた) 方でご賛同頂ける方を募集しています。海原会事務局までメール他でご連絡ください。

【会報バックナンバー閲覧パスワード】

ホームページの活動レポートからは会報のバックナンバーの閲覧ができます。閲覧にはホームページの活動レポートからは会報のバックナンバーの閲覧ができます。閲覧にはパスワードを設定しております。ユーザー名はkaihouです。パスワードは2013年12月14日までは「100:ninC」、2013年12月15日からは「neWOkubo」になります。

お知らせ/ 掲示板

海原メディア会総会のお知らせ

平成26年1月25日(土)午後1時~3時
 学園カフェテリア 会費 2,000円(軽食付)
 懇親会 午後3時半~ 於 新大久保「韓味」 会費 3,000円
 連絡先 メディア会事務局 jimukyoku@unabaramedia.com

無言館「絵繕い基金」へお力添えください

今年で16年の歳月を超える「無言館」は、太平洋戦争下に「絵を描きたい」という一心で絵筆をとり続けた画学生たちの「声」を少しでも現状に近い姿で次代に伝え、保存する義務があると思います。その遺作群が劣化し痛みがひどくなっているようです。その為に基金を募集しております。言うまでもなく「無言館」は多くの支援者で賄っております。同窓である館主の窪島誠一郎氏 (S 35 年卒) を応援するためにも、首記の件にご協力ください。(詳しくは会報部会山本満男まで)



二七会の写真集が出来ました

10/18に行われた同期会の写真です。出席者の方には配布しましたが、欠席者でもご希望の方は下記の幹事までご連絡ください。懐かしい仲間の顔が掲載されています。

(幹事・中嶋可明まで)

海原二七会(同期会)
 2013年10月18日 新大久保カフェテリア
 Photo gallery



海原会の電話・FAX番号が変わりました 電話 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641

海原会連絡室に海原会専用の留守電話・FAX 機能付き機器を導入しました。事務局には常駐の事務局員はいませんので、その場で対応することはできませんが、転送などの機能を使つて的確な部署への連絡が可能になりますので、できるだけ早い段階での対応・返答ができるよう努めますのでご了承協力をお願い致します。なお海原会関連で学園の事務局へ問い合わせることはお控えください。

海原会へのご連絡は以下の3つの方法にてお願いいたします。

1. インターネット

<http://www.unabarakai.jp>

■ 海原会ホームページの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からアクセスできます。

■ 海原会連絡室より数日内にお返事します。

(数日内)

2. FAX

03-6233-9641

■ FAX によるご連絡をお受けします。

■ 数日内にお返事します。

(数日内)

3. 電話

03-6233-9631

■ 電話のご連絡を留守電にてお受けします。

■ 10日以内にお返事します。

(10日以内)

編集担当

山本満男 (S 27)
 片山忠美 (S 28)
 石原長夫 (S 33)
 安藤浩 (S 34)
 小西洋也 (S 41)
 国井信男 (S 62)
 岡本浩太郎 (H 02)

◎長い間に蓄積された自分の身から少しづつはがれ落ちていくようなさびしさ...どこから入ってきた誰かの計報を受けるたび... (片山)
 ◎いよいよ海外海原会、医業会も動き始めました。今号も情報満載です。(小西)

◎TVの半澤直樹を観た。歌舞伎役者の様な眼力の演技。八田一朗は選手にライオンや虎と睨めっこさせて眼力を鍛えたことを思い出した。(石原)

◎TVの半澤直樹を観た。歌舞伎役者の様な眼力の演技。八田一朗は選手にライオンや虎と睨めっこさせて眼力を鍛えたことを思い出した。(石原)

◎「かつら製作」「金魚の飼育」、共にユニークな道を究める海城人の味ある生き方に拍手。(安藤)

◎「かつら製作」「金魚の飼育」、共にユニークな道を究める海城人の味ある生き方に拍手。(安藤)

編集後記

うなばら 海原

題字河原孝好先生

発行
平成 25 年 12 月 1 日
第 38 号
海原会
編集責任者 小西洋也

〔海原会事務局〕
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 3-6-1 海城学園
TEL 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641
E-mail : unabara@kaijo.ed.jp

海原会 鉄研OB会と初の共同企画を実現 会員とその家族約50名が参加



目には焼き付け
思い出とした。
下田では
100分ほどの
自由時間。ロー
プウェイで寝姿
山に登る組と
市内の名所巡
りをする組に

今年の海原会の見学会は鉄道研究会OB会との初めてのコラボ企画となりました。今年で創部45周年になる鉄道研究会が伊豆急行で特別記念列車を走らせる計画を海原会が後援、会員への参加呼びかけなどで協力することで実現しました。参加者は錨にNのマークの入ったマークに「うなばら」と書かれたプレートをつけた車両について特別貸し切り列車の贅沢な気分を存分に味わったほか、貴賓室の見学や検修工場の見学や下田での海にまつわる歴史名所を巡りなど盛りだくさんの一日を過ごしました。

11月3日(土)11:09、記念列車うなばらは定刻通り伊豆高原駅を出発した。

車内には10代から80代までの幅広い年齢層の海原会員とその家族約50名。乗車時に手渡された特製弁当を頬張りながら伊豆の絶景を堪能する者あり、おしゃべりに花を咲かせる者あり。あつという間に時は過ぎ、終点の下田駅に到着した。

下田駅では伊豆急行の格別の取り計らいにより貴賓室の見学を許された。貴賓室は下田の須崎御用邸を利用する皇族を筆頭に、大臣、三権の長、下つても県知事クラスまでしか使用を許されないとのこと。当然ながら写真撮影は厳禁であり、一同はしつかり

特別貸切列車「うなばら」号 伊豆海岸を走る



分かれて観光。寝姿山の山頂からは江戸時代に日本の玄関であった下田湾を一望。「あ、黒船だ!」という声も上がったが、もちろん黒船風の観光船であった。



名所巡りでは海原会の見学会にふさわしい海にまつわる歴史名所が目白押し。まずは日本初の本国領事館居留地の玉泉寺とハリス記念館この玉泉寺前の弁天島。あの愛国の土吉田松陰が黒船に密航を企て幕府に捕まり、雄図空しく挫折の記念像。ペリーロードを通じて和親条約の了仙寺、龍馬が飛びお吉が眠る宝福寺など、幕末の歴史が満載、楽しいひと時を過ごした。

下田から伊豆高原駅に戻ったあとは検修工場を見学。車両の修理や自動車の車検に当たる作業をするエリアでは、ホンモノの車両や部品の説明を受け、迫力満点。特別な経験をすることができた。

今回の記念列車運行には、益田浩一郎氏(S56)、間多洋彰氏(H15)をはじめとする鉄道研究会OB会、山本満男見学部会長(S27)はもちろん、旅行会社にも勤務する松浦敬任氏(S57)、伊豆急と親父のあった唐澤 洋海原工業会会長(S41)の力添えがあり、盛会となった。

(国井信男)

鉄研OB会長 益田浩一郎(S56)

この度の特別列車「うなばら」の運転にあたりましては、海原会幹事の方々のご協力を頂き、広く同窓生、そのご家族にも参加を頂きました。ご協力、誠に有難うございました。

※海原会は皆様の会費で運営されております。

第二回ゴルフ大会



優勝は鶴殿幸夫氏(S39) 72名が参加 腕を競い親睦深める

10月11日(金)、第二回ゴルフ大会が開催されました。舞台は昨年に続き、緑豊かな筑波学園都市近郊の「豊里ゴルフクラブ」。最年長の土井護氏(S23)から最若年の松下憲一氏(H10)まで総勢72名が参集し、その腕を競い合いました。その結果、鶴殿幸夫氏(S39)がみごと優勝の栄誉を勝ち取られました。準優勝は、樋口稔洋氏(S53)、3位は高橋通浩氏(S50)がはいりました。ベストグロス賞は、吉岡幸夫氏(S32)と荒尾純平氏(S57)が共に78で並び、年齢順で、吉岡氏が昨年に続き取得しました。それにしても若手の荒尾氏の活躍、みごとなものです。同時に特筆すべきは、84歳の土井先輩が、アウト、インとも50を切り、93で廻った事です。健康長寿を実践する同氏に大なる刺激をうけました。今回は、主として同年卒二人ずつの組み合わせとしたためか、若手の現役の方々にとっては、本会で初めての同期の手合わせとなり、貴重な体験となったようです。プレー終了後、直ちに表彰式兼懇親会に移り、元テレビ東京アナウンサー、四家秀治氏(S52)の司会により、成績発表、賞品授与とテンポよくとりすめられました。今年の賞品は「越後の新米」や「魚の干物」、海城の焼きマークの入った「どら焼き」など、実行委員会の工夫を凝らした景品が用意されました。また徳光会長が挨拶に続き、寄付いただいた賞品などの、せり売りの仕切り役も引き受けられ大いに盛り上がりました。

本ゴルフ会が、同窓の幅広い交流の場として、益々盛況となりますよう、実行委員一同、準備万端相整え、来年も頑張て参ります。

なお第二回のゴルフ大会は来年10月10日(金)に予定しています。詳しくは会報最終面のお知らせ・掲示板に掲載しておりますのでご覧ください。

賞品を寄贈いただいた、徳光会長、立石海城学園後援会長、吉岡実行委員長に感謝いたします。



(安藤 浩)



	OUT	IN	グロス	HDCP	NET
優勝 鶴殿幸夫 (S39)	45	41	86	14.4	71.6
2位 樋口稔洋 (S54)	43	45	88	15.6	72.4
3位 高橋通浩 (S50)	50	43	93	20.4	72.

ベストグロ	OUT	IN	グロス
吉岡幸夫 (S32)	39	39	78
荒尾純平 (S57)	37	41	78

第二回海原会GOLF会コンペ出席者

卒年	氏名	昭36	久保田良一	昭43	永江	学
昭29	土井 護	昭36	齊藤 邦雄	昭44	岡川 孝	清明
昭29	中尾 欽哉	昭36	立花 幹史	昭44	千賀 孝雄	孝雄
昭29	松田 武司	昭36	林 昭策	昭46	工藤 昭廣	昭廣
昭29	渡辺 弘之	昭36	藤咲 浩男	昭47	齋藤 淳一	豊一
昭31	越川 昭	昭36	溝口 舜亮	昭47	石里 隆	彰
昭31	牛込 昭	昭36	谷中 祐輔	昭48	里川 義男	也
昭32	松岡 征治	昭36	山田 雅康	昭48	甲斐 達也	行
昭32	宮岡 昇	昭37	大矢 寛	昭48	小角 弘通	浩
昭32	吉岡 幸夫	昭37	山田 和雄	昭49	金子 玲洋	信
昭33	荒川 宝	昭37	鷺田 幸夫	昭50	内田 稔	尊
昭33	池内 宏	昭38	飯村 善弘	昭54	樋口 純平	憲
昭33	小口 正弘	昭39	岡 幸一	昭54	東海林 純一	郎
昭33	西川 芳浩	昭39	川瀬 文夫	昭56	田浩 太郎	信
昭33	安藤 敏朗	昭39	野田 祐輔	昭57	益荒 達吉	由
昭34	栗原 隆	昭39	田崎 秀博	昭57	荒尾 吉岡	史
昭34	小山 雅和	昭39	丹羽 博治	昭57	益荒 吉岡	史
昭34	鈴木 一善	昭40	小西 洋也	昭62	国井 下	松
昭34	山崎 典夫	昭41	小西 洋也	昭63	井松	下
昭34	山崎 浩志	昭41	小西 洋也	昭63	井松	下
昭35	渡辺 邦正	昭41	小西 洋也	昭63	井松	下
昭36	伊藤 隆雄	昭41	小西 洋也	昭63	井松	下
昭36	岡本 隆雄	昭41	小西 洋也	昭63	井松	下

第二回ゴルフ大会 ありがとうございました

海原会ゴルフ会実行委員長 吉岡幸夫

朝方心配された天気もスタート前には申し分のないゴルフ日和になり、先輩、後輩72名が和気あいあいと白球を追って楽しい1日になりました。今年はパーティーも賞品も少し趣向を変えてみました。参加者の評判もまずまずで無事終了しました。これも参加された皆様とスタッフの皆様のご協力のおかげと感謝に堪えません。設営されたスタッフの皆さんのホットした姿が印象的でした。次回第3回は10月10日東北自動車道佐野インターから3キロの東武藤が丘CCに設営しました。ぜひ多数のご参加をお待ちしております。なお一期2年間、実行委員長を務めさせていただき有難うございました。ゴルフ会も軌道に乗り始めました。次期実行委員長には若手の後輩に引き継ぎたいと思います。有難うございました。



海原会サロン

台風にも関わらず今年も盛況
士業会の職業紹介やミック披露なども恒例となった海原会サロンが今年も9月14、15日の両日母校の文化祭「海城祭」に合せて開設されました。今年は士業会やメディア会など海原会の各分科会がサロンの場を使ってそれぞれの活動をPRするなど動きもあつて、同窓生、現役さらに父兄との一段と活発な交流の場となりました。

主な展示内容は海城学園の歴史を分かりやすく写真でみせるコーナーや様々な分野で活躍するOBを紹介する「時代を創った先輩50人」、さらに学園創設者古賀喜三郎の紹介パネル、他に海原会の年間の活動を写真で紹介するコーナー、卒業アルバム展示など盛りだくさん。それに加えて今回はメディア会や鉄道研究OB会が独自にその活動を紹介するパネル展示をしたり、士業会がサロンを

訪れる父兄や現役生に向けて会計士や弁護士などメンバーの仕事内容を紹介するミニ講演会を実施したりしました。このような各分科会の参加でその関係者など初めてサロンを訪れる人も多くなり、これまで以上に活気あるサロンとなりました。サロンで待ち合わせて同期会や仲間の会合などに出かけるグループも段々増えており、海原会会員の親睦・交流としてのサロンが定着してきたようです。

また海原会ブランドینگ部会はPTAと並んで海原会のネームの入った特製キャップやTシャツ、ポロシャツの販売を行いました。二日目は台風の影響もあつて客足が心配されましたが、過去最高の売上を達成、ここでも海原会の存在を広くPRしました。来年は5年目になります。サロン部会を中心により充実したサロンを目指してまた企画を検討しておりますが、皆さまの積極的な参加を期待しております。

(S47年卒 石黒淳一郎)



海外海原会

設立の動き活発化

NY、フロンペンに続きベトナム、ロスにも

一年ほど前にニューヨーク在住の安井喬さん（H2）と羽山遼さん（H13）の二人が海原ニューヨーク会を立ち上げたのに続いて、今年はカンボジアのフロンペンを拠点に仕事をしている小市琢磨さん（H5）と岡崎宏幸さん（H3）がフロンペン海原会を発足させたとの報告を頂きました。同窓会報告の中でも紹介して

いますが、最近現地で海城に縁のある人と巡りあい、懐かしい新大久保談義をする機会があったとの便りがありました。またこの11月には在米歴30年、現在米ロサンゼルスで観光事業を営む宮田稔丈さん（S45）がロス支部の設立を引き受けて頂きました。また12年前からベトナムを拠点にプロゴルフとして活躍するとともに旅行業などを営んでいる梶宏光さん（S37）にもベトナム海原会の発起人をお願いし引き受けて頂きました。梶さんは昨年の海原会ゴルフ会の第一回大会に参加して会員にベトナムでの活動をアピール、その後海原会の会員が何人も現地でお世話になつていとの話も伺っています。「後輩諸君、閉塞感

のある日本から世界に羽ばたけ！違った価値観を見い出せると思う」とのメッセージを頂いています。

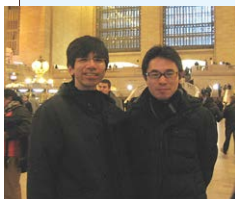
なお海外支部とのコンタクトを希望する方は海原会事務局へ問い合わせください。

このように徐々にですが海外で活躍する海原会同窓生のネットワークができて始めました。

この他にも海外の様々な地域で仕事をしたり、活動をしている人が大勢いると思います。今後海原会としても情報を集めながら海外海原会の活動支援をしたいと考えておりますので、是非各地域で海原会支部立ち上げに協力して頂ける方、また海外に出ている同窓生の情報をお持ちの方、海原会事務局までお知らせください。



ベトナム支部 梶さん



NY支部 安井さん
羽山さん



ロス支部 宮田さん



フロンペン支部 小市さん
岡崎さん

海原士業会

学園祭に参加

9月14日及び15日開催された海城学園祭で海原会サロンを借り、海原士業会の活動報告及び職業紹介を実施致しました。14日は、天候に恵まれましたが、15日は台風の影響で生憎大荒れの天候でしたが、両日とも大勢の訪問客がありました。両日弁護士・公認会計士・税理士の職業紹介ビデオ放映し、15日は田中純一郎弁護士（H3）・長沼徳宏公認会計士（H4）がそれぞれの仕事内容について熱弁をふるい聴衆の喝采を浴びました。

初めての学園祭参加でしたが、これも士業会会員・海原会役員の協力の賜物と厚く御礼申しあげます。

（昭和41年卒 士業会会長 唐澤 洋）



海原メディア会

サロン参加&懇親会報告

今年3月に発足した海原メディア会は母校の学園祭（9月14日、15日）に合わせて開設された「海原会サロン」に初参加、パネルを展示するとともに、14日に懇親会を開きました。サロン会場ではメンバーの日向大祐さん（H9）が手品を披露するなどして訪れた人たちを楽しませるパブニングもあ

り、メディア会員の多士・多才ぶりが垣間見えることになりました。懇親会を予定していたこともあつて植木昭夫さん（S20）はじめ、砂田郁郎さん（S27）、康芳夫さん（S31）など会員が多数「海原会サロン」に集結し、サロンの盛り上げにも大きく貢献しました。

懇親会は大久保駅近くの韓国料理店「韓味（ハンミ）」で開きました。出席者は15名。それぞれ自己紹介や近況報告をして懇談、当初2時間程度を予定していましたが6時過ぎまで盛り上がり、一部は二次会にも出かける盛況ぶりでした。この店はメディア会員の呉 成平さん（H10）の実家が経営する店ということで随分とサービスをして頂きました。

■なおメディア会では11月30日に那須海城中学高等学校（京王多摩センター）の開校記念日の特別イベントとして、日向大祐さんによる全校生徒を対象としたワークショップを行う予定です。次には舞台俳優の溝口舜亮さん（S36）による、このような特別授業への協力を計画して準備を進めています。

■また11月末海原メディア会の公式HPがオープンしました。

海原メディア会事務局

海原医業会 設立準備中

りました。医業会の立ち上げにお力を貸していただける方を募集いたします。

海城学園を卒業して医療関係に従事している（していた）方でご賛同いただける方は海原会までご連絡ください。

※海原会の連絡先は最終面をご覧ください。

海城学園を卒業し医業に就いている卒業生は数多くいます。これらの方々との交流の場として医業会を設立したらどうかという声が数年前から上がっていました。

このたび、昭和41年卒の小吹優さんが設立の発起人としてとりまとめたことにな



われら海城人

金魚研究家

川田洋之助さん

かわたようのすけ(昭和46年卒)

かつら職人

山本和明さん

やまもとかずあき(昭和29年卒)



文化芸能の発祥地は江戸・浅草であらう。特に庶民が熱狂した歌舞伎は貧富を問わず、今で云えばファッションの地といふところだろう。山本さんのご先祖もこの浅草で、あの時代劇で見る「かつら職人」として営んでいたという。

見よう見まねの職人技

山本さんは極めて珍しいかつら職人だ。現在は本郷・湯島で営まれている。荒れ狂うビルラッシュの中で4階建ての住まいを持つている。ドアを入ると大きな看板が壁に飾ってある。「山辰」とある。あの時代劇に見る金箔を貼った厚さの皿もあろうかボリウムのある文字が浮き彫り、しかも左書きだ。山本さんは祖父、親父と受け継がれた3代目になる。この仕事はお手本は無いという。親のやつている仕事を見よう見まねで修練したという。見せ場を作る職人芸だ。

学業と家業の狭間

開口一番どうして海城に入ったかを聞くと、「電車に乗りたかつたんですよ(笑)。

奥深い金魚の世界

世の中にいろいろな研究家がいるので金魚研究家という人がいても不思議はないが初めて聞いた。済みません。金魚といえば夜の金魚すくいぐらいいろしか思い出さない門外漢にとつて一体この人は金魚の何を研究しているのかわかりたくて早速話を伺うことにした。

この時代、特に職人家業としては、学校に入る事は身分不相応で、だからと言って学校に入らなければと親としては一大決心だったとか、二律背反の様相だったに違いない。少年時代の彼は念願の電車に乗って海城に通い、そして高校を卒業して家業を継いだ。話しながら彼は海城時代のアルバムを開いて、懐かしさを楽しんでいた。

板金

工房に案内された。近頃は日本舞踊家のかつらが多いという。そうなんだ、いつの世でも女性の髪型はやはりの最先端をいくのだろう。その人の頭部に合わせる為にアルミの板金を巻きつけたモデルが多数あった。「これを頭に被せ、合うように板金するんだよ」えっ、板金？ちよと驚いた。と言つて何度も部分的に叩いて合わせる仕草を見せる。つまり土台作りだそうだが人の頭は千差万別何度でもあうまで板金するという。そこは慣れた手つきで微妙に叩いて板金する。

髪の毛は本物の人毛

その上にメッシュ状の布を貼つて毛

を植える。毛は本物の人毛だという。「本物の毛を使うんだ。人工の毛髪は癖がついて治らないんだ。本物じゃないとダメなんだ」

なるほど、そうは言うもののどうして入手するんだろうと心配すると「毛屋さん」に頼むというのが中国、韓国から取り寄せるらしい。そして和たんの引き出しから毛髪束を見せしてくれた。すごい！毛の長いものは1mもあろうか、使う長さは半分になるという。「もの」と解釈すればどうということないが生きている髪の毛だ。

圧巻なのは骨箱みたいな箱が廊下まで一杯棚に並んでいる。箱に髪型の模型が入っている。髪は結つていない残バラ髪で収まつている。髪結いは「床山さん」がやるとのこと。これら職人たちの手を掛けて成し遂げる技は「表現者」の一人だろう。

くし、髪ざし

上の階に案内された。そこには櫛、髪ざしがたんす一杯に入っていた。いよいよ派手な雰囲気盛り上がりつつ。日本髪というのは錦絵などを見ると「うつくしき髪のように」とある。髪

だけではない。これら装身具も芸の本質を見極める極致になっていると思う。

最後に不躰な質問をした。テレビなどでも時代劇は衰退している事を言うと、山本さんは最後に「確かに仕事は減つて来たがこの仕事が潰れる事は無いよ。もし潰れるとしたら歌舞伎座がつぶれる時だよ」作務衣を着た彼は物静かに、時々笑いながら語ってくれた。

(山本満男 記)



元気であることはその環境が元気だということ、何より世の中和でないと飼えないものなんです。金魚の気持ちになつて世界をみれば人間社会も見えてくるというわけである。

いま川田さんは「金魚は日本の誇るべき文化。しかも平和のシンボルとしてパンダ外交ならぬ金魚外交がはじまることを夢見ている」。



佐久間雅彦さん

さくまさひこ (昭和49年卒)

未来の科学少年育成に励む
かつての科学少年

佐久間さんは小学校低学年の頃から「ファーブル昆虫記」「シートン動物記」、牧野富太郎先生の「植物図鑑」に啓発されて自然科学に関心を抱いたということである。

将来の夢

生まれ育った東京・品川区には近くに元細川越中守の下屋敷跡戸越公園があり、そこに残された自然に親しんだ少年の日々だったそうである。科学センターで学ぶ機会があつて科学への興味は増すばかりで、卒業の文集には「天文学者か物理学者になりたい」と書き、将来は理工方面で活躍したいと考えた。

夢に向かって

中学校に進み、物理・化学・生物の先生に恵まれ、つい身を乗り出してしまふほど授業が面白かった記憶が

夢をつかむ

3年になる頃には専門書もある程

今も鮮明に残っており、生物、医学、科学史や数学についても興味をもち、科学センターにも通い続けた。高校では多方面に目を向け多角的に考えるようになり、歴史と自然科学についての興味、関心は一層強くなつて大学は薬学、物理学などの理学部を受験しようと考えた。青山学院大学理工学部物理学科に進んだが、専門科目の授業は教科書、黒板の板書、講義、テストすべて英問英答というように英語力を鍛えられた。ヨーロッパの大学や研究所などを見学する機会を得てオランダのライデン大学（低温物理の名門）、イギリスのロールスロイス社（コンコルドの工場）、スイス・ジュネーブのCERN（欧州原子核研究機構）、イタリアのミラノ工科大学などを訪問した。

次の世代へ

昭和55年に理科教師として川崎市多摩区の中学校に赴任。後に数校を経験し、川崎市青少年科学館指導主事となる。南関東自然系博物館ネットワークづくりを振り出しに、多摩川をフィールドにした小学校用理科（総合的な学習の時間）小冊子・ワークシートの作成、日本科学未来館実験工房立ち上げのプログラム開発や5Fフ

佐久間雅彦さん プロフィール

日本進化学会会員
西アジア考古学会会員

考古学は総合科学であることを実感し、小学生の頃から興味があつたエジプト・カトンボニアなどの歴史を紐解くことに興味を抱き、世界20ヶ国以上を渡り歩く。来年も、1年間を通して様々なプロジェクトを実施していく予定である。

(片山忠美 記)



初対面だが現れた川田さんは大きな金魚のプリントがついたTシャツを着ていたので一目でわかった。のっけから金魚である。「そもそも金魚のルーツは6000万年前に現れたフナの原型魚にあつて・・・日本には1502年室町時代に中国から入つて・・・」で話を聞いているうちにあまりの奥深さと広がりにより圧倒されることとなった。

祖父の金魚みて育つ

川田さんと金魚の出会いは普通の人とあまり変わらない。小学校に上がるころ祖父が飼っていた金魚を見て興味を持ったのが最初だという。「当

凝っていると知っている人はほとんどいないかもしれない。金魚といえば生物部とかをイメージするが柔道部に席をおいていたというし、大学も工学部を選び、化学系の会社に勤めている。金魚のイメージは全くない。でも「人と違ったことをやりたいとか、やると決めたら実行するとか、正しいと思つたらあくまで貫くとか結構先生方を困らせる問題児だった」という。

46歳で退職 金魚に生きる

大学時代に本格的に再開していた金魚の飼育はサラリーマン時代には住んでいたマンションが30も水槽で埋ま

いる。

金魚は平和のシンボル

今や金魚といえば川田さんというほど全国区の人である。「金魚のすべて」「金魚の食生活」「金魚図鑑」「四大金魚のすべて」「らんちうのすべて」など著書は共著を含めて10冊以上ある。なかでもユニークなのが最新刊の「金魚のことば」。最近では「自分自身金魚目線になつてしまつて」といながら「金魚というのは自然界のものでないのだから世話をしないと消えてゆく隠れた絶滅危惧種なのです。金魚鉢は金魚にとつて地球と同じです。金魚が



(小西洋也 記)

川田洋之助さん プロフィール

素人金魚名人戦代表

日本インターネット金魚愛好会副会長など著作活動やTV出演のほか全国に出かけ金魚文化の魅力を広めている

限りなきオマージュ

富士山



富士山がユネスコの世界文化遺産に登録された。そこで

で富士山といえばこの人、大貫金吾さん（S23卒元数学教諭）にご登場願った。このほど登頂500回の記録をちょうどまとめて自費出版したばかり、改めて大貫さんにとつての富士山を伺った。

登頂回数530余

大貫さんと富士山の出会いは25歳の時。「生きていうちに一度は登りたい」という母親を連れて登頂したのが最初といえます。以来50年余り、77歳まで挑み続けてきてその登頂回数は530回に達しています。その間他にも日本の百名山も制覇しキリマンジャロなど外国にも出かけているのですがそれでも

なぜ富士山なのでしょう。

「麓から頂上まで見渡せ、聳え立つ山は他にない。もちろん日本で一番高い山だから頂上に立つと周りの山々が一望でき実にすばらしい。でも自分にとつては都心からも近くてアクセスも良く日帰りもできるのがなによりの魅力といえます。なにしろ「海城の山岳部の顧問をしていたこともあって、引率者が生徒に遅れをとるようなことになつてはダメだと思つて」トレーニングのつもりで始めたのが富士登山の動機だったのです。

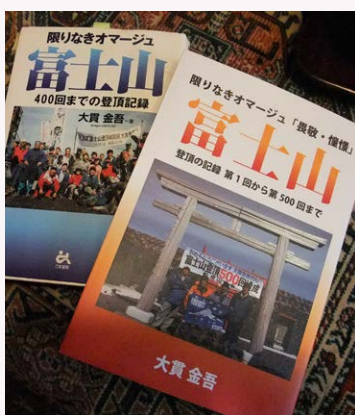
未踏の記録を保持

「別に登頂回数を競つてきた訳ではありません。回数だけでいえば2000回も登つた人もいるのですから。私はいろいろなルートから登つたり、スキーで下山をしたり、一日2回登つたり、次はこうしてみようとか今度はここにチャレンジしてみようとかやってきました」。そんななかでも大貫さんが今でも密かに自慢する記録があります。田子の浦からスタートして登頂しその日に戻ってくるという山行です。「海拔ゼロメートルから3776メートルまで登つてまたゼロメートルに戻るおよそ100キロを走破

しました。17時間かかりましたね」と軽く語るが、大貫さん64歳の時に達成した記録です。しかもその後いろいろな人がトライしたがまだ誰も成功していないといえます。

富士は修行の場

富士山のすべてを知り尽くしたともいえる大貫さんにとつて富士山とはなにか最後に聞いてみた。「修行の場であり自分の体力への挑戦の場」といいます。およそ5年前に「自信はあるが何かあつたら迷惑をかけるから富士登山はやめました」と今は登っていないが、大貫さんにとつて富士山は本のタイトルにあるようにいまなお「限りなきオマージュ 畏敬・憧憬」の山であり続けています。（小西洋也）



日本のレスリングを広めた男

八田 一朗（大正13年卒）

9月8日未明に2020年夏季五輪、パラリンピックの東京開催が決まった。7年後の開催に向けて受け入れ体制は進み、経済効果は幅広く業界に波及しそうだ。そんな中で除外候補だったレ

との風潮があつた。異端児とののしられ、やぐざの襲撃も受けたこともあるという。2度に渡る兵役、6年余を中国で従軍、除隊を経て戦後は日本レスリング協会第3代会長（1946年4月）

1965年7月参議院議員選挙に自民党から立候補して当選、スポーツ議員第1号となった。写真はその二期目のもの。そこには母校海城の建学精神に触れる一文も見られる。1983年4月15日死去。76歳没。

今回、決定したオリンピックの東京開催は前回から56年が経過して、当時、彼が招致に尽力した時とは時間的にも大きな隔たりがある。社会も高齢化して変化が激しいだろうが、開催に向かっ

生きたままを振り返り観て

昭和18年卒 福田賢三

大東亜戦争という途方もない時代に少年時代をおくり、敗戦という日本の歴史の中にかつてない事象を経験し、社会に飛び出した私は「さて」これから先をどのようにして生きてゆかなければならないかと心配しましたが、戦勝国が日本への進駐は「アメリカ」二国ということで迎えたので敗戦に打ちのめされた我が国にとつては「幸運」な敗戦処理と思わせたのがつい先頃のことのように思われます。

私は昭和18年3月に海城中学校を卒業と同時に幸運にも海軍省人事局人事課高等文官補任係という部署に雇員として採用配置され、激しい大東亜戦争の真つただ中に身を置くことになり、官庁職員として人生を歩きたすことになりました。昭和20年8月の終戦に伴い、アジアの各地に送り出した文官各位の復員業務などに従事しておりましたが、私自身も海軍省行政の縮小に伴い、外地に送り出した文官諸氏の復員業務が軌道に乗った状況の中で気象庁（当時の気象台人事課）、運輸省官房人事課、運輸省官航空局人事課、さらに航空局の空港事務所を全国規模で歴任し、最終的には函館空港の長を経て官庁歴に終止符を打ちました。その後は運輸省関係の公益法人の業務を経験し78歳を最後に国家行政・公益法人を卒業し現在に至っています。いまだ健康も順調なので地域の老人会などで頑張っています。

ラグビー部の思い出

昭和55年卒 堀川一彦

Sさんは本当に面倒見のよい先輩でした。毎週土曜日の午後になると先輩は勤め先から必ず現れ、私たち現役の「海城高等学校ラグビー部」の部員を他流試合の現場へと誘う。相手

カメラ片手に自然・社会を見つめる目良誠二郎さん

この人もその一人だろう。情報化時代のスピード化にやもすれば風化してしまいがちなご時世になった。そこで元教師目良誠二郎さんを訪問した。あの自称「髭彦」先生である。当時といっても数年前になるだろうか。生徒たちから惜しまれつつ退職された先生だ。私はこの先生が40年間在籍中の生徒でないの知らない。

画期的な「海城新聞」

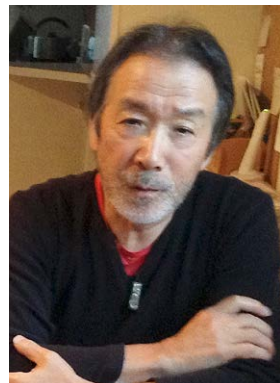
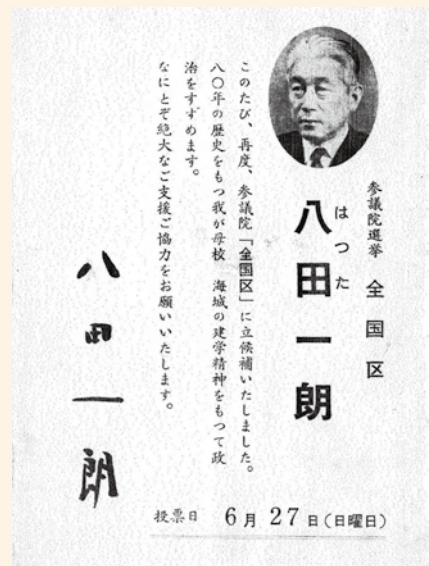
その知らない私が気が付いたのは「海城新聞」の顧問？ かなんかでメッセージを掲載された覚えがあった。この新聞は昭和21年に発行、平成4年まで続いた。その翌年、同窓会会報「海原」が復刊し

スリングが存続することになり、柔道、体操と並ぶお家芸なので、国民はじめ関係者の期待は大きい。「日本レスリングの父」といわれ、今や伝説的存在になりつつある本校OBの八田 一朗の活躍が面白い。彼は父親が海軍兵学校の教官だったため、幼少時は江田島、呉など軍港に育った。厳格な父親に反発、いたずらでよく喧嘩をしていたという。旧制開成中学に入り、旧制海城中学に編入、卒業した。中学4年の時に10人ばかりで大乱闘。その後、自分の身を守るために本格的に柔道を始めた。そして早稲田大学へ進学、1932年に早稲田大学政治経済学部を卒業。在学中に仲間と作ったレスリング部が日本のレスリングの始まりとなる。当時は「レスリングは柔道より格下」

1983年4月。40年近くの長きにわたり会長を務め、その強烈な個性とカリスマ性で日本を世界に互して戦えるレスリング王国に築き上げた。戦後は指導者に軸足を置くようになり、海外遠征の経験から、外国選手の練習方法を積極的に取り入れた。彼の指導法は「八田イズム」とも呼ばれスパルタ的なものだったといわれている。1964年の東京オリンピックに備え、不屈の精神力を涵養し技術を磨く。スパルタ訓練が連日連夜代表選手に課せられた。この猛訓練はマスコミの注目を集め、恐怖の厳罰「剃るぞ!!」という言葉が紙面を賑わせ、当時の流行語にもなった。

で邁進して行くことだと思ふ。

(石原長夫)



facebookで活躍している様子である。ベン・シャーンじゃないが心底「平和」を愛し、毎週金曜日「脱原発」を唱える姿は敬意に値する。机上論ではなく動く人間には頭が下がる。カメラ片手に自然を見つめ、ある時は社会を見つめ、高まる動機にポエムを詠う。なんと髭彦先生に賛同するネット訪問者は十万人に及ぶと言う。

いま何をすべきか

因みにこの画家は水爆実験で被災された第5福竜丸シリーズを描いている。こんなことをなぜ書くのかという特殊性を持つ髭彦先生の風貌が思惟を表しているからだ。ついでに髭彦の事を聞くと「私がトップを切つて髭彦にしたらんだ。そのあと小林先生も...」(笑)お邪魔した日はうつつらした髭彦だった。ちよつと淋しかった。髭彦は生来のもので、遠慮は無用(笑)。

カメラ片手に

その後の髭彦先生の消息を知ったのは

が都立の高等学校であろうと私学の名門であろうと相手側のグラウンドに先輩は同伴され、私どものグラウンドで試合をするときはレフリーなどをされておられました。先輩は早稲田大学の本流ラグビー部の二部まで進まれた方で、故大西鉄之助先生の知友でもあったと想像されます。それは今までのダラダラとハイパントをあげ、ゲロを吐くまでのラグビーからいかに勝利を挙げるのかという「早稲田大学流の組織プレー」。私共子供たちの目からは「近代ラグビー」にみえました。

取材に同行して

久々の対面であった。昔と変わらない風貌に、懐かしさがわき上がってきた。

自然の景観を損なわない閑静な住宅街の中にあるお住まいには、随所に季節を感じさせる、ふと心和むような品々が置かれる癒しの空間があった。

平和への情熱は以前より強く、話される言葉は、落ち着いて静かな中にも重厚かつ研ぎ澄まされたものがあつた。

これからも、自分の心と素直に向かい合い、自らの思いを発信できる先生であって欲しい。

(昭和49年卒 佐久間雅彦)

第92回

海原会総会

平成25年

本年度の海原会総会は6月第1土曜日の1日に母校海城学園の講堂で開催されました。出席者は300名近くほぼ満員の状態。最初に徳光和夫会長（S34）が挨拶され、海原会の現状と各活動の構想を語りタテ、ヨコの繋がりを強調されました。次に古賀喜博理事長（S33）が挨拶され、数年後に迫った125周年への取り組みと、海原会の豊富な人材が持つ力を後輩のために提供して頂きたいと学園教育への協力を要望されました。

議事進行では予算、決算、活動状況の報告、承認のあと、現在会則の改定を審議中であることと新年度の人事が報告されました。続いて恒例となりました卒業年度表彰では、卒業から60年にあたる昭和28年卒業生以下、昭和38年（50年）、昭和48年（40年）、昭和58年（30年）、平成5年（20年）の各対象年卒業生へ記念品が贈られました。

そして現役生徒の吹奏楽団の演奏と校歌を斉唱したあと、場所をカフェテリアに移して親睦会となりました。乾杯の首頭を出席者の中で最長老、御年101歳の清水秀雄さん（S4）に取って頂き、会場は世代を超えた歓談の輪がいくつもできました。中締めは今春卒業した最年少の木元隆雄さん（H25）に元氣良く万歳三唱発声して頂き、無事終了しました。（石原長夫）



皆さん今日は、今日は多くの皆さんにお越しいただきまして、これほど嬉しいことはございません。ますます海城学園はグレードが高くなり、知名度が上がって参りまして先輩としてこれ程嬉しいことはありません。けれども先輩として余り大したことをやっていないのですが、私たち先輩達いたしましても恥じない先輩生活をしなればいけないと、そのことを自分自身に言い聞かせながら本日までやって参りました。

さて海原会といたしましては、学園創立125周年に向けてまして、ハード面ではなんとか寄付という形で協力をさせて頂きたいと思っております。また、ソフトの面では海原会のヨコの繋がりは



多角的な分科会が創る海原会

徳光和夫会長挨拶

多角的な分科会が創る海原会

徳光和夫会長挨拶

多角的な分科会が創る海原会

徳光和夫会長挨拶



平成24年度海原会活動報告及び平成25年度活動計画

	平成24年度活動報告 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)	平成25年度活動計画 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)
4月	7日 編集会議 21日 合同委員会・常任幹事会、編集会議 28日 編集会議	13日 編集会議、海原会GOLF会会議 20日 編集会議 27日 会計監査
5月	6日 海城吹奏楽団演奏会鑑賞 7日 会報35号発行 12日 広報委員会・総務企画委員会 15日 広報委員会(パスワード変更) 28日 総務企画委員会 30日 総務企画委員会	1日 会報37号発行 8日 海原会専用WEB開設 11日 プランディング部会、常任幹事会 15日 広報委員会(パスワード変更) 25日 総務企画委員会
6月	2日 海原会総会 23日 プランディング部会	1日 海原会総会
7月	12日 夏の高校野球応援 14日 広報委員会 28日 海原会サロン部会会議、海原会GOLF会会議	夏の高校野球応援 広報委員会 海原会サロン部会会議 27日 海原会GOLF会大会申込み切
8月	25日 海原会サロン部会会議、海原会GOLF会会議	海原会サロン部会会議 24日 海原会GOLF会会議
9月	15・16日 海原会サロン 29日 編集会議	14・15日 海原サロン 編集会議
10月	12日 海原会GOLF会大会 20日 編集会議、海原会GOLF会会議 25日「無言館」ツアー	11日 海原会GOLF会大会 編集会議 見学会ツアー
11月	10日 編集会議 17日 編集会議、合同委員会・常任委員会 24日 編集会議	3日 見学会ツアー 合同委員会・常任委員会 海原会GOLF会会議
12月	1日 会報36号発行	1日 会報38号発行
1月	26日 広報委員会、プランディング部会	広報委員会
2月	2日 会計幹事会 16日 総務企画委員会	会計幹事会
3月	2日 海原会GOLF会会議、プランディング部会会議 2日 広報委員会、編集会議 9日 編集会議 18日 卒業式にて祝辞・海原会賞授与 30日 常任幹事会	常任幹事会 18日 卒業式にて祝辞・海原会賞授与 (各委員会・部会は適宜会議を開催)

平成24年度収支計算書及び平成25年度予算

(平成24年4月1日～平成26年3月31日)

単位＝円

収入の部	平成24年度予算	平成24年度決算	平成25年度予算	備考
永年会費	2,200,000	2,706,009	2,610,000	87名
年度会費	800,000	781,000	900,000	300名
入会金	3,760,000	3,753,000	3,750,000	375名
総会参加費	800,000	906,000	870,000	290名
その他収入	400,000	285,400	300,000	グッズ販売収入
寄付金	50,000	182,100	50,000	
雑収入(利子)		1,871	5,000	
合計	8,010,000	8,588,380	8,485,000	
支出の部	平成24年度予算	平成24年度決算	平成25年度予算	備考
会議費	150,000	138,546	150,000	
総会運営費	1,600,000	1,408,177	1,600,000	
会報印刷発送費	4,680,000	4,711,287	4,700,000	20,500部
会報編集費	200,000	283,687	200,000	
通信費	120,000	78,400	100,000	
クラス会補助	100,000	80,000	100,000	
後援活動補助	200,000	200,000	200,000	吹奏楽団後援
慶弔費	30,000	15,750	30,000	
振替手数料	60,000	71,260	60,000	
事務費	50,000	38,320	50,000	
海原会賞	60,000	10,000	20,000	2名予定
総務費	0	31,100	50,000	
広報活動費	250,000	116,449	100,000	
ホームページ改定費	200,000	126,000	450,000	
備品費	0	21,000	140,000	
用品費	430,000	227,162	150,000	
雑費	0	210	0	
海原会参加費	280,000	257,339	280,000	
予備費	0	0	0	
寄付金	0	10,000	0	
旅費交通費	0	3,000	0	
雑損失	0	35,047	0	
法人税等	0	80,400	80,400	
合計	10,200,000	10,622,705	8,410,000	
前年度繰越金	12,870,126	12,870,126	13,515,372	
当年度過不足金	-400,000	645,246	24,600	
次年度繰越金	12,470,126	13,515,372	13,539,972	

海原会総会の開催おめでとうございます。毎年6月第1土曜日に、このように多数の会員の方々が母校にお集まりいただきますことは、海原会の一員として大きな誇りでありますし、また一方、母校をお預かりしております教職員の一人といたしまして、とても心強く感じしております。

徳光会長をはじめ会員の皆様方のご協力に心より感謝申し上げます。

母校を取り巻く社会環境、特に教育環境は、年を追って厳しさを増しております。少子高齢化の影響による就学人口の全国的な減少、公立学校のなりふり構わぬ変化、政治経済の長年にわたる低迷による国力の低下等々、明るい話題が年々少なくなってきたりします。このような環境の下、



多くの私立学校が志願書の減少に苦しんでおりますが、母校は例外的に優秀な志願者を増やしている学校のひとつです。

卒業生の築かれた伝統の下に優秀な生徒が集い、優秀な教職員による良質な教育が実現していることが評価されている結果だと思えます。

そして中高完全一貫制教育の完成、海外の文化を経験してきた帰国生の本格的な入学、ドラマ・イン・エデュケーションやプロジェクトアドベンチャーなどに象徴

としての力は、教科書から学だけで無く、人生の先輩の言葉や生き方から学ぶべきものです。

海原会は、学園にとって大切な財産です。そして海原会は「人財」の宝庫です。会員皆様方の豊富なご経験から生まれた力を、後

後計画の進捗状況に応じ内容をお知らせしてまいりますので、今後ともご協力方よろしくお願いたします。

海原会益々のご発展を祈念いたします。

古賀喜博理事長挨拶

人生の先輩の力を後輩のために

される先進的な教育への取り組み等、母校海城は更に進化を続けてまいります。

将来、世界を舞台に活躍できる人材は、学力だけで無く人間力が問われます。「フシアな精神」や「思いやりの心」のような人間

輩のためにご提供いただき、母校の教育にご協力頂きたく期待いたします。

現在、創立125周年記念事業として、校舎建設を計画しております。理科教育の充実発展を中心目標としておりますので、今





那須高原海城中学校・高等学校教頭
塩田 顕二郎

キャリア教育講演会

「大学のその先」

11月20日（金）、キャリア教育講演会が開かれ、私と同級生で中学時代にはともに軟式テニス部だった木邑健太郎さんを講師としてお招きしました。現在、木邑さんは青梅市立総合病院で救命救急センターで医長をされています。しかし、救命救急医になるまでの道のりは平坦ではありませんでした。木邑さんは、東大文科二類に現役で合格するほど中高時代は「勉強の虫」でした。しかし、東大に入るといわゆる「燃え尽き症候群」になつてしまい、学生時代は漠然と4年間を過ごしてしまつたそうです。そして、そのまま大手企業に就職。3年目には財務部のIR（株式市場・資本市場向けの財務広報）担当として、国内・海外向けに企業情報の発信をする仕事につき、世界を飛び回るようになりました。ところが金融のプロフェッショナルを相手とするなかで、自分の力不足を痛感、「お金」相手の仕事ではなく、「人間」と向き合う仕事でいたいと思うようになったそうです。そ

こで、多忙な仕事の合間に受験勉強をはじめ、見事2000年に信州大学医学部に合格。27歳からの再出発でしたが、東大での4年間を取り戻すべく勉強をして、晴れて長野で医師人生をスタートさせます。その後、救命医学の分野に進む決心をされ、ドクターへのフライトドクターも経験されます。そのドクターヘリで長野の空を飛び回っている頃に木邑さんから私のところにメールが届いたのです。このメールこそが今回の講演のきっかけだったので、一部ご紹介いたします。

「教育」ということに直面させられます。そんなときある週刊誌の見出しに「東大までの人、東大からの人」という文言を見つけました。東大経済学部を卒業しながら、医者なんぞやっておる僕は「東大までの人」なのではないかと考えさせられました。

父として、子供たちにも同じ「燃え尽き」体験はさせたくない、そのためにはどういう教育がいいのか、真剣に考えるようになりしました。そんなとき、ふつと那須海城のHPを見たというわけです。そして那須高原海城の「未来構想支援機構」の記事。「大学のその先」なんて、僕は考えてもいなかった。東大に入れば、それで「勝ち組」人生が約束されるのだと思っていました。

恥ずかしい話ですけど……でも現実の世界はそんな甘くなかった。そして、自らの失われた時を取り戻すために、僕は大変な努力を強いられた。「大学のその先の夢」を見据えた教育。このところの自分の悩みに一つの答えをもらったような気がします……

高校卒業以来会っていない旧友からのメール。ぜひ、木邑さんの「経験」と「後悔」を生徒に語って欲しいとお願いし、ようやく実現したのです。



講演では「大学のその先」という演題で、これまでの木邑さんの半生から「大学に入ることがゴールではない、大学に入ってから何をするかが大切だ」ということや、その一方で「中高時代の勉強の蓄積が自分の助けになったので、また将来のイメージが具体的に持てないのであれば、目の前の勉強をしっかりやることも大切だ」と中高生に90分熱く語ってもらい、その思いはナスカイ生の胸にも響いたようでした。

海原会グッズ通信販売

海原会グッズはFAXやメール、ホームページでの注文もお受けしています。氏名・送付先・電話番号・ご希望のグッズの品番・個数をご連絡ください。

お支払いはグッズに同梱した振込用紙にてお支払いください。

※会報に同封されている振込用紙はグッズ代金の支払いには使用しないでください。

HP : <http://www.unabarakai.jp>

FAX : 03-6233-9641

※ホームページはトップページ右上の「海原会」へのお問い合わせ・ご連絡からお進みください。

※別途、送料がかかります。



Tシャツ(KSと錨のエンブレム2種)

品番	種類	価格
T1	Tシャツ(大きめのLサイズ)KS	1000円
T2	Tシャツ(大きめのLサイズ)錨	1000円



ポロシャツ(KSと錨のエンブレム2種)

品番	種類	価格
P1	ポロシャツ(Lサイズ)KS	2000円
P2	ポロシャツ(Lサイズ)錨	2000円



キャップ(3種)

品番	種類	価格
C1	青白	1200円
C2	青	1200円

あつて海原会グッズも同窓生や父兄の皆さんに普及し、海原会の関係イベントにそろって帽子をかぶってきたり、Tシャツ、ポロシャツを着てくる人たちも増えました。ブランディング部会では今後さらに同窓の絆を強めるツールとしてのグッズの販売のほか様々なイベントと組んでの活動を展開して行く計画です。お手伝い頂ける方ぜひ一緒にやってみませんか？海原会事務局へ一報ください。(ブランディング部会)

ブランディング部会 奮戦記

もうすっかりおなじみになりました海原会グッズ。これらの同窓会グッズなどを扱っているのが海原会ブランディング部会です。海原会の対外的なアピールと内部的には同窓生としての意識向上に結び付く活動をしています。そのツールとなるのが海原会のロゴの入ったTシャツ、ポロシャツ、帽子の制作と販売です。

現在このブランディング部会を運営は青木一雄さん(S34)と栗原敏朗さん(S34)と関野龍一さん(S35)の三人を中心に行われています。



す。今年もブランディング部会では海原会総会の懇親会の場をはじめ、甲子園を目指す野球大会の会場、秋の海城祭・海原会サロン、さらにゴルフ大会へ出かけてグッズの販売をしてきました。このような努力も



海原三三四会

古を和やかに振り返る

本年5月18日(土)、わが海原三三四会是有楽町にある外国特派員協会で同期会を開くことができました。わが学年はご存じかと思いますが昭和23年3月に旧制中学校(5年)



を最後に卒業した者と、翌昭和24年3月に新制高校第1回の卒業生となった者の学年です。現在の年令は82才または83才になっているため、恩師は全て他界され、我々17名が集まり、古を和やかに振り返り、お互いの健康を願いながら今回の会合を約束して散会しました。

わが海原三三四会小生が教員として母校に戻ってから今日まで同期会の幹事を努めてまいりました。

(昭和23年卒 大貫金吾)

海原三五会

明年は入学70周年

恒例の昭和25年高卒同期会を10月22日、南青山の「うすけぼ」で開催。参加者24名。

今年から昼間の開催に切りかえた。午後1時、尾上武朗君の司会で開催。先に旅立った多くの仲間の冥福を祈り、冥福を捧げたあと、秋山哲児君の乾杯の音頭で宴に入る。

第2次大戦も末期の昭和19年(1944年)、旧制、海城中学入学のわれわれは、明年には節目の70年目を迎える。その間、未曾有の大変な激動の時代を乗り切ってきた。仲間のほとんどが筆舌につくしがたい人生経験を味わった。でも、まだ多くの「戦友」たちが八十路を懸命に歩みつつある。だがその前途は、険しさを増す。

この日、名古屋から野球部主将だった飯田耕作君、仙台から高橋博君もかけつけ足元不如意の白井亨二君は奥さん同伴で出席した。宴たけなわ、1人つつしショート・ス



海原二七会

学校出てから六〇年

恒例の同期会を開催した。

ピーチ。自分自身や家族の近況。健康問題などが主だったが、それぞれ多少の問題を抱えているものの、平均年齢をクリアしたこともあって、ある意味では達成感さえ漂っていた。ともあれ、談笑の輪があちこちに広がり、今年も、まことに楽しく3時間ではあった。「7年後の東京オリンピックを見ようや」というのが宣言となったが、さしあたり皆んな達者で、来年も出来るだけ多くの仲間と会いたいものだ。そして最後に松平新太郎君の音頭で海城校歌を斉唱。全員、歌詞を片手に大声を張りあげた。(梅沢喬)



海原二八会

男でもなく女でもなく

卒業して60年、このところ2回続けて出席した同期会でした。昨年は海原会総会へも。また、先輩たちと長野無言館、デッサン館をめぐり、帰りに、別所温泉で一泊、同期の蒲田泰子さんと旧交をあたためました。

徐々に居なくなる懐かしい顔ぶれにちよびり不安を。誰さんの顔が見えない、如何したのか。元氣かなとも。どうしても女の方が長生き。我が学年のホープ、憧れていた海城のミスタージャイアンツも調子が悪いと、顔見られずで。などなど。私達学年だけにいる女子数人、最早老年、男でも女でもなく人間として触れあっていたいのです。そんな触れあいが出来たらと、想いつつ会を思いやりました。爽やかな



市ヶ谷・私学会館「アルカディア」7Fに集まった。2・3年前から帰る時間を考慮して早めの宴会にしている。そんな事はどこ吹く風、きのう会ったかのように昔の若者がお互いに声を掛ける。学校出てから60年時が経つのは早い。もう傘寿を迎えた。例によって近況報告書を配布、この齡で全員集まるのは無理だが、70人近い仲間の消息に一喜一憂。宴たけなわ、一人ひとりのスピーチに、思い出が駆け巡り尽きる事がない。時間がオーバー。楽しいひと時を過ごす事が出来た。みんな健康でいてほしい。

出席者 糸井洋一・上原繁・川崎欣二・金子五郎・鮫島弘周・坂本誠一・東海林靖男・砂田郁郎・高田定男・塚田一雄・中嶋明・中島弘・中嶋可明・山本満男 (山本満男)

生き方で接して、もっと生きたい・・・、
逢いたい、そして最後はみな死に臨むの
ですから。

(片山時子)

出席者：池田晋、茂野正三郎、高岩正
直、中島欽一、新井淳、猪瀬宏司、大
塚富士雄、鈴木一男、近松玄天、宮
本直昭、村松孝則、小室昭松、池谷武
伊藤昌宏、植田清志、片岡清子、加藤
雄次、金子皓一、蒲田泰子、杵村義昭、
藤井恕一、片山時子、込山智義、荻原
寿保、島田篤子、南本一郎、武藤暢夫
(新宿 歌舞伎町「車屋本店」 平
成25年6月22日)

海原三五会 同期会 11月第一水曜日

2013年11月6日(水)、海原会
三五会同期会を池袋サンシャイン59階



の「天空の庭・星のなる木」で行なった
出席者33名。回を重ねるごとに顔と
名前が一致するようになり懇親度も急
伸、予定時間を遙かにオーバーする盛
会となった。海原会総会が毎年6月第
土曜日と決まっているように、我々も11
月の第三水曜日を同期会の日としてよ
うということになり、今後の集まりが大い
に楽しみである。

(渡辺育男)

海原三三会 創立125年に喜寿を祝おう

晩秋というより初冬を思わせる日が
あり、昨今の気候は暦通りに進んでく
れません。恒例の三三会を母校カフェテ
リアで開催しました。出席は21名、顔
ぶれは余り変わらないので名札はやめ
た。先ず、物故者のご冥福を祈り黙禱
(最近の物故者：下谷浩彦君、中島芳
彦君、小林英治君、小金井二正君。司
会進行は石原長夫君。開会の辞を前田
がやった後、学校の現況報告が古賀理
事長からありました。乾杯はいつも元
氣瀧瀬、和服に袴姿の神影流名人、豊
島一虎君で始められた。最近の海原会
活動について石原副会長より、前週に行
われた第2回海原会ゴルフ大会について
池内宏君からありました。恒例の近
況報告では平野凱久君が英語でスピー
チし、それを永竹久雄君が面白おかしく
通訳(正解は不明)する一コマがあり
一同爆笑。楽しい一時であった。再来



年は学園創立
125周年、海
原会95周年と
目出度く、三三
会も「喜寿」の
祝いを催したく

思います。来年も元気で明るい笑顔で
の再会を誓い校歌斉唱。中締めは元氣
よく豊島君の三本エール。1本目は学園
2本目は同期の古賀理事長、3本目は
我々三三会同期と締めて散会した。

(前田昌則)



海原三九会 同期会 卒50周年に向けて

4月19日(金)に毎年恒例の同期
会神楽坂のローズルームにて開催いた
しました。今年の話題は来年の海原
会総会で祝卒業50周年表彰のことで、
記念に母校に何かできることがないか
や表彰当日に記念になるようなサブ
ライズは出来ないかななどで大変盛り
上がり、今年の海原会同窓会に参加し
て状況にあった内容を年末の忘年会

までには決定することとなりました。
又、昨年開催された同窓会ゴルフコンペ
以降、同期会のゴルフコンペが盛んにな
り、本年も3月29日に茨木県の浅見カ
ントリーで開催し5月20日にも開催
しました。

同期の皆様、同期会の会合やゴルフコ
ンペ参加お待ちしております。

今回の出席者は写真の左後列から
鶴殿幸夫、丹羽秀夫、横井信一、井戸
正一、宇井世紀、角田純二、西村尚士、
田崎祐輔、岡善弘でテーブル前に座つて
いる左から川瀬幸一、照井耕之助の11
名です。

(川瀬幸一)



第1、2回 昭和62年同期会 有志でゴルフコンペ

3月の同期会飲み(於：海城カフェ
テリア)から2ヶ月あまり、今度は同
期会コンペで昭和62年卒有志が再集合
しました。今までも仲間内で集まつて
ゴルフというのは何度もあったのです



が、きちんとしたコンペの形式をとった
のはおそらく初めてです。

3組12人でのコンペを予定していま
したが、初回は控えめの参加7名。栄
えある第1回コンペを制したのは森功
有くんでした。

第2回コンペは9月16日(月)の予
定でしたが台風の直撃で延期し、10月
27日(日)に集まれるものだけ集まっ
たラウンドも大雨中断。天気に恵ま
れなかったものの、11月24日(日)によ
うやく実現。第2回は景山昇一くん
が優勝となりました。

当コンペの参加資格は「昭和62年海
城高校卒」です。参加希望の方は海
原会ホームページの「海原会へのお問
い合せ・ご連絡」かfacebookの
「海城高校1987(昭和62)年卒
業同期会」からご連絡ください。

(国井信男)

6年5組(渡辺先生)クラス会 卒業7年 時の流れを感じる

今年度は8月18日に開催し、先生

した。就職難の時代ですが、海城の卒業生はその荒波にも負けず社会人になれるという底力を感じました。かく言う自分は医学科の最終学年であり、恥ずかしい医師・社会人にならぬよう、日々国家試験の勉強明け暮れ、休日に残り少ない学生の日々を満喫しています。来年も継続して開催する予定なので、連絡の届いてない方はfacebookの僕のページからコンタクトしていただきたいです。次年度もまた一つ大人になった皆と楽しく飲



含め18名の参加でした。この会は卒業2年目から毎年夏、一度も欠くことなく開催され続けております。今年は卒業後7年目にあたりますので、6回目の開催です。中学1年生の僕らを受け持たれた渡邊先生のご年齢と、僕らがほぼ同い年になってしまったことに、時の流れを感じてしまいます。5組は理系であり、大半が大学院に進むため7年目の今年は学生最後の夏の者や、就職活動に区切りがついた者、社会人1〜3年目としてバリバリ働く者とヴァリエーション豊かな年

めることを楽しんでいます。

(中村昌義)

平成20年卒同窓会 初めての参加者も

海城を卒業してそろそろ6年が経つ。社会人になって働いている者もあれば、学生として研究を進める者もある。「卒業以来初めて来た」という者もいて、カフェテリアで思ひ出話に花を咲かせた。開催告知が事前連絡になってしまったので、集まったのは20人弱。アメリカから帰国したメンバーがいたり、「はじめまして」の挨拶を交わす声が聞こえたり。今までは騒がしかった同窓会も、今回の企画では和やかなムードに包まれた。次回開催予定日程は1月4日。「毎年新年の第一土曜日に新年会をやる」という提案があったので、近いうちに同期の皆に連絡します。その際は返事はお早めに。

(津村大樹)



地域海原会

湘南海原会

35回の歴史刻む



第35回湘南海原会は河合卓爾会長（昭和十八年卒）は急用のため欠席となったが七名が参加して開催された。長年会場として使用して来た店が閉店した為に急遽茅ヶ崎駅ビル六階快飛ラスカ店での開催となった。会を長年重ねるにつれ湘南海原会そのものの歴史は刻まれるものの、会員の年令はそれと共に高令化し、各自元気で参加しているものの必ずしも体調万全ではない様にも見える。各自の近況報告（特に体調）、懇親食事会のあと、次回開催十一月二十九日（金）同じ場所での開催を確認し、互の健勝を祈念し

合い記念撮影のあと散会した。

(昭和29年卒 佐藤都志雄)

プノンペン海原会

3人目を発見

98代塩田先輩からの連絡でお互いに知った海城繋がり。プノンペン海原会を設立した翌月、9月14日に、早速第二回を開催しました。プノンペンで三人目の発掘は不可能かと思っていました。縁のある人を発見。真向かいの戸山小学校を卒業された古田さん。さすが生まれ故郷だけあり、日昭堂やめとき等、学校界隈の知識は、我々以上に豊富です。特別会員としてお迎えしました。（平成5年卒小市琢磨）



OB会

文化祭実行委員会・生徒会OB会

30代中心に打ち上げ

少し古い話ですが、9月の海城祭のあとに、文化祭実行委員会・生徒会OB会の打ち上げをしました。今年の

出し物は鰻坂くん（平16卒）の超軽量電動二輪車と津村くん（平20卒）によるクロスアツプマジックと20代のOBによるものだったので、本来慰労すべき若手は大学院の研究があるというところで、直帰。30代以上を中心に打ち上げをするようになりました。

今年の海城祭で講演をしたクイズ王の能勢くん（昭62）は久々の海城祭。校舎が変わったことに驚いていました。1980年代の海城祭で伝説のバンド



と言われた『電子レンジャー』の二宮くん（昭63卒）も打ち上げから緊急参戦。みんな楽しんでひとときを過ごしました。

文化祭実行委員会・生徒会OB会では毎年新年会を実施しています。詳細はメーリングリストで流すので、OBの方でメーリングリストの登録が済んでいない方は海原会ホームページの『海原会へのお問い合わせ・ご連絡』までご連絡ください。

※奥様・お子さまの参加大歓迎です！怖くないですよ（笑）！（国井信男）

海城高校野球部OB会総会 すそ野の広がりを実感

6月22日（土）海城学園カフテリアにて海城高校野球部OB会総会が行われました。

総会ではOB会規約の改定や役員の改選などの議事が行われ、30〜40代中堅OBの中には運営の要に就く人も出てきて、会のすそ野の広がりを実感させました。

総会のあとは、夏の高校野球に臨む現役野球部を激励。100人を超えるOBや保護者を前に熱戦を誓う海城健児を遠く眺めて「オレももう一回…」と言葉ボツリの昭和の海城球児。年々充実する応援席に、隔世の感を禁じ得なかったようです。

海城球児に元気をもらったOBはさらに新大久保で盛り上がり。昔話で一杯、今回のOB戦についてもう一杯。最後は海城球児の夏が1戦でも多く



1日でも長くなることを祈り、散会となりました。

（平成9年卒 宇野 晋）

高校野球部OB H3 & H5 23年ぶりの再開

お盆休み直後の8月21日、海城高校硬式野球部H3年及びH5年卒のOB有志による会が開かれました。参加者はH3年卒が古川さん、藤井さん、服部さん、中嶋さん、齋藤さん。そしてH5年卒が笹沼君、山中君。



菊地君、丸岡の計9名。

野球部は卒業後もOB会、夏の大会観戦等の機会はあるものの、2年離れた学年が一堂に会する機会はさすがにそうはなく、今回も実に23年ぶりの再会となりました。

ひとしきり近況報告を行った後、やはり話題は当時の話に。自身の思い出のプレー、田中政元監督の名言等々、各々の断片的な記憶をバズルのようにつなげる事で当時の思い出が23年振りに鮮明に甦り、非常に楽しい時間を過ごす事が出来ました。

期待された（？）外見上の大きな変化があまり見られなかったのが少し拍子抜けではあったものの、次回はグランドでの再会を約束して会を締めました。（平成5年卒 丸岡直樹）

水泳部OB会

プールサイドに集合

2013年9月14日（土）海城祭に合せて、水泳部OB会を開催いたしました。昭和56年・57年・58年卒のメンバーで、当時は水泳ではなく、水球（Water Polo）を行っていました。

母校を訪問するのも久しぶりという事で、まずは海城高校プールサイドへ集合。約30年ぶりという事もあり、名刺交換などから。校長先生・斉田先生にご挨拶し、海城をあとに。

その後、新大久保の居酒屋に場所を移し、お互いの近況報告と参加できなかったメンバーの話に。時間が経つにつれて、自然と当時の水球の話へ。当時の



ライバルであった、砧工業や、八王子東強豪チームであった明大中野の話に。名簿作成と、近いうちの再会を誓い合い、惜しみつつも一次会にて終了いたしました。

出席者：大澤先生（顧問）、関戸淳生・金井伸郎（昭和56年卒）、倉井健一・永峯一慶（昭和57年卒）、竹内大（昭和58年卒）

連絡先：永峯（welcome@nacky-csai.jp）

海城高校バドミントン部

福島顧問の定年退職を祝う会

平成25年1月26日（土）夕方5時から、池袋西武デパート8階バンケットルームで、海城高校バドミントン部顧問福島羊一先生の定年退職を祝う会を開催した。1979年卒、初代の主将佐々木康博さんを筆頭に、20歳の大学生駒谷和哉さんまで22名の参加を得て賑やかなひと時となった。1977年（昭和52年）に同好会から部に格上げされ、以来35年もの間バドミントン部を率いて頂いた福島先生の定年退職ということで、思い入れの強い元部員たちが参集した。

我が部には黄金の82年卒という年代がある。今回幹事の一人としてご協力頂いた場所昭人さんが個人単で神奈川県平塚市で行われたインターハイに出ている。他の部活を見渡しても全国レベルの戦果は聞いたことがないので海城高校自体にとってもこれは空前絶後の快挙である。

福島先生が退かれたことでバドミントン部も新たな時代を迎えるだろう。ぜひとも黄金の82年を超える強豪世

代が出てきて、背中の「東京都」に相應しい戦果を残してほしい。



会員活動情報

富田勝彦 個展

両手に花

9月10日〜15日に成城学園の「さくらさくギャラリー」にて富田勝彦氏（S1）の個展が開かれた

今回のテーマは燐。ギャラリーではアジアの花が咲き乱れていた。

富田氏は海城中学・高校卒業。中

訃報

謹んで
ご冥福をお祈り
申し上げます。

昭13 高木 資和 23
昭14 尾形 安長 25・3・25
昭15 佐藤長次郎 25・7・5
昭16 立石 光 25・2・25
昭17 谷口 正彦 24・7・5
昭18 河原 但馬 勇 24・3・1

昭18 伴野 丈夫 24
昭19 川合 成夫 24・12・5
昭20 小野木喜一郎 24・7・13
柿崎 義一 22・3・7
勝間田節郎 25・1・13
金子和一郎 21・11・13
玉澤 昭 24・2・21
鈴木 久 24・9・7
昭22 山本 中司 24
昭24 遠藤 英夫 24・3・3
昭25 石川 達也 25・8・20
昭26 小林 亘久 24・11・5
24・7・28

昭26 三森 光信 25・1・24
昭28 岡 輝雄 25・2・10
昭29 奥村 壽雄 24・9・27
水野 和郎 23
白鳥 方通 24・5・25
松下 忠生 24・2・21
昭30 北村 直也 24
昭31 山下 孝良 24
昭32 大崎 宏 24
昭33 矢島 健司 23・9・4
昭34 小倉井一正 25・10・4
昭37 秋山 真之 25・2・3

昭38 肥塚 具親 25・2・27
昭39 石井 建夫 23・10・9
昭40 石田 隆 25・2・22
窪田 敬三 24・1・17
昭42 今村 勉 24・9・12
昭45 大石 昌弘 25・10・30
昭50 橋本 博 25
平3 石田 樹 25・11・18
平17 西原 康晃 24・6
平22 佐々木秀基 25・3・3
旧職 加藤 恒子 25・2・3
旧職 西上床ツヤ

寄付

海原会ゴルフ会

(二万円)

昭34 山崎 洋 昭41 鈴木 莊介	昭35 関野 龍一 昭56 後迫 武	昭41 和田 一憲 昭46 齊藤 明朗	昭24 弓仲憲太郎 平7 汐崎 祐	昭52 鈴木 頼奈 昭35 岩松 功祐	平25 芦澤 峻 昭56 町田 昇	平21 山田裕一朗 平9 櫻井 俊宏	昭56 遠藤 幸彦 平21 征矢 直記	昭62 渡邊 靖 昭46 原 孝	平25 太田 敦也 平22 大塚 崇史	平25 山崎 清琳 平24 岡田 大瑚	昭52 原 淳 昭23 上條 茂樹	平3 山下 高廣 平1 古賀 喜憲	昭28 村松 孝則 平22 谷本 尚史	昭51 浜田 晃爾 平25 佐藤 秀磨	昭50 前納 克裕 平25 菅谷 剛士	平25 田中 佑樹 昭33 鈴木 正雄	平25 保谷 優太 平18 葦名 淳	昭35 洞口 喜功 平24 小笠原啓祐	平3 吉川 耕司 (五万円) 昭63 河村 敦志	昭56 江田 弘幸 平24 東條 尚志	平24 下山 慧 平23 中村 文紀	平4 田中 宏和
--------------------	--------------------	---------------------	-------------------	---------------------	-------------------	--------------------	---------------------	------------------	---------------------	---------------------	-------------------	-------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	--------------------------	---------------------	--------------------	----------

(平成25年5月から平成25年11月まで)
(受領日順)

永年会費を納入されている方にも、封入作業の都合で、会費の振込用紙が同封されていますが、ご了承ください。

学時代はサッカー部のキャプテンとして活躍。校内試合では海城の国語教諭だった尾木先生（尾木ママ）とボールの取り合いをしたこともあるとのこと。武蔵野美術大学を卒業後は勤めながら創作活動が続け、時間を見つけては世界中を放浪して見聞を広めてきた。

富田氏の次の活動は京都での個展となる。12月21日（土）～1月19日（日）の期間で京都「Art Space 寄す処」にて開催される



ので、興味のある方は足を向けていただきたい。
(国井信男)

鯨坂志門氏

鯨坂さん、テレビに出る

鯨坂志門氏（平成16卒）の研究がこのところのテレビで取り上げられている。

鯨坂氏は東京大学大学院に籍を置きつつ中央大学でロボットの研究をしている。ロボットというトリモコンで動かす人間型を想像しがちであるが、彼はニークな発想で、部屋自体をロボットにしてみたり、全部自分で考えて目的を達成するロボットなどを発表してきた。そして、今回は自立式の電動二輪車である。

電動二輪車という米国のセグウェイが有名であるが、鯨坂氏の製作した電動二輪車は比較にならないほど軽い。手で持ち運ぶことができるほどだ。



セグウェイ

イは走破性を重視して大きな車体になったが、「乗り越えるのが難しい」

段差や階段は持ち運んでしまえばよい」という逆転の発想で軽量化に成功したところがいかに彼らしい。今年、海城祭でも鯨坂氏の自動二輪車は展示され来場者に大人気であったが、これをマスコミがほおっておくわけがない。

10月のテレビ東京のワールドビジネスサテライトに続き、11月にはTBSの風の言葉にも登場した。

ワールドビジネスサテライトでの様子は以下のURLから閲覧することができるのでご覧いただきたい。
http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/wbs/trend_tamago/post_51922
(国井信男)

溝口舜亮氏

日刊ゲンダイにインタビューされる

夏八木勲、地井武男、原田芳雄…俳優座で花の15期と言われた名優の中に、溝口舜亮氏（S36）がいる。溝口氏が日刊ゲンダイにインタビューされ特集記事が組まれた。

「江戸川乱歩シリーズ・明智小五郎」に明智小五郎役で主演されたときの話、俳優座での話、アングラ劇団を旗揚げしたときの話。

海原会で見せる穏やかな溝口氏とはまた別の、演劇に賭ける熱い思いが伝わる記事であった。

(国井信男)



永年会費納入者 (敬称略)

昭34 山崎 洋 昭41 鈴木 莊介	昭35 関野 龍一 昭56 後迫 武	昭41 和田 一憲 昭46 齊藤 明朗	昭24 弓仲憲太郎 平7 汐崎 祐	昭52 鈴木 頼奈 昭35 岩松 功祐	平25 芦澤 峻 昭56 町田 昇	平21 山田裕一朗 平9 櫻井 俊宏	昭56 遠藤 幸彦 平21 征矢 直記	昭62 渡邊 靖 昭46 原 孝	平25 太田 敦也 平22 大塚 崇史	平25 山崎 清琳 平24 岡田 大瑚	昭52 原 淳 昭23 上條 茂樹	平3 山下 高廣 平1 古賀 喜憲	昭28 村松 孝則 平22 谷本 尚史	昭51 浜田 晃爾 平25 佐藤 秀磨	昭50 前納 克裕 平25 菅谷 剛士	平25 田中 佑樹 昭33 鈴木 正雄	平25 保谷 優太 平18 葦名 淳	昭35 洞口 喜功 平24 小笠原啓祐	平3 吉川 耕司 (五万円) 昭63 河村 敦志	昭56 江田 弘幸 平24 東條 尚志	平24 下山 慧 平23 中村 文紀	平4 田中 宏和
--------------------	--------------------	---------------------	-------------------	---------------------	-------------------	--------------------	---------------------	------------------	---------------------	---------------------	-------------------	-------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	--------------------------	---------------------	--------------------	----------

(平成25年5月から平成25年11月まで)
(受領日順)